



歴史は忘れるべからず

世界反ファシスト戦争勝利70周年を記念して

日本の 戦争

責任についての認識

歩平 著



五州伝播出版社



歴史は忘れるべからず

世界反ファシスト戦争勝利70周年を記念して

日本の 戦争

責任についての認識

歩平 著



五州伝播出版社



图书在版编目 (CIP) 数据

日本的战争责任认识: 日文 / 步平著; 译谷译. — 北京: 五洲传播出版社, 2015.8

ISBN 978-7-5085-3210-3

I. ①日… II. ①步… ②译… III. ①侵略战争—研究—日本—现代—日文
IV. ①K313.46

中国版本图书馆CIP数据核字(2015)第178397号

“历史不容忘记——纪念世界反法西斯战争胜利70周年”系列

监 制 / 国务院新闻办公室

出 版 人 / 荆孝敏

统 筹 / 付 平

日本的战争责任认识

著 者 / 步 平

翻 译 / 译 谷

责任编辑 / 高 磊

装帧设计 / 北京原色印象文化艺术中心

出版发行 / 五洲传播出版社

地 址 / 北京市海淀区北三环中路31号生产力大楼B座7层

电 话 / 010-82005927 82007837

网 址 / www.cicc.org.cn

承 印 者 / 北京圣彩虹科技有限公司

版 次 / 2015年8月第1版第1次印刷

开 本 / 889×1194毫米 1/16

印 张 / 36.5

字 数 / 450千

定 价 / 278.00元

目次

前書き

- 一 中日間の共同的な歴史研究から 8
- 二 三つの異なる面から見た歴史問題 11
- 三 「語境」——民衆歴史認識の異なる形成背景 12
- 四 お互いに理解促進するのは学者としての責任 15

第一編 敗戦——日本人の精神の大崩壊 17

- 「玉音放送」は歴史認識の「伏線」を埋めていった 18
- 「聖戦」思想の崩壊 29
- 「騙された」を発見——初歩的な目覚め 37
- 「神風特攻隊」の空しさ 43
- 社会の表と裏 48

知識人の「転向」と日本共産党の最後抵抗…………… 55

小川武満医者：精神崩壊からリフレッシュまで…………… 59

第二編 東京裁判——外部が戦争責任への追及…………… 85

「戦争責任」を追及——外部それとも内部に源を発する？…………… 86

東京裁判の対象…………… 89

東京裁判の法廷と準備…………… 92

裁判管轄権の論争に関して…………… 94

起訴状…………… 97

判決…………… 100

東京裁判の意義…………… 101

東京裁判の欠陥…………… 104

「東京裁判史観」——造り出された概念…………… 111

「東京裁判」に直面——栗屋憲太郎との対話…………… 117

第三編 「悔恨の共同体」——内部から戦争責任に対しての追及…………… 137

「戦争を始めたの責任」それとも「戦争失敗したの責任」…………… 138

誤った道に引かれた戦争責任の追及…………… 141

「二億人総懺悔」——欺瞞性の戦争責任論…………… 144

天皇の戦争責任……………148

民衆主体意識の目覚め……………156

「国家に忠誠」を拒否——大熊信行の思考……………162

「悔い共同体」——丸山真男の思考……………169

日本人の戦争認識の問題——藤原彰先生との対話……………174

家永三郎様：「無作為」を反省する学者……………188

戦争責任の問題を検討——仏教僧侶の大東仁との対話……………210

第四編 アジア向けの戦争加害についての認識……………235

ベトナム戦争と日本人の戦争加害意識……………236

南京大虐殺問題に関する検討……………250

家永三郎先生と教科書訴訟……………258

加害角度からの戦争責任思考……………263

「毒気島」上で発生した物語……………267

「岐阜2001年会」……………282

日本での「毒気ショー」……………298

第五編 盲目から覚悟まで——戦争経験者の思考……………315

日本戦歿学生記念会（わだつみ会）……………317

「中国帰還者連絡会」(「中帰連」) 32I

季刊「中帰連」 334

「犬死」についての討論 342

苦しい記憶と反省 347

山辺悠喜子：八路軍に参加した日本人 355

三尾豊：「鬼」から人間への元日本憲兵 388

第六編「広島から南京まで」 4II

原爆から水爆まで 412

「原爆」一号——吉川清 415

平和都市の建設 419

矛盾からスタートした平和運動 424

広島民衆の反戦反核立場の形成 43I

原爆爆発の被害と日本の加害 437

広島平和運動の考え直し 443

教育の重要性 452

広島への訴えと戦争責任 453

平和運動は直面する新問題 456

8月の広島 465

第七編 歴史修正主義の活躍と「戦後責任」の思考

「侵略戦争」性質についての争論	486
歴史認識論戦の焦点の一つ——「従軍慰安婦」の問題	488
「自由主義史観」——危険の傾向	492
「自由主義史観」が生まれた国際原因	497
「自由主義史観」と「大東亜戦争史観」	500
「新しい歴史教科書」の歴史観	509
「新しい歴史教科書」の戦争責任認識	514
「歴史教科書の記載が全面的に逆戻り」	517
女性性犯罪に対する国際審判法廷	527
「戦争責任」と「戦後責任」	532
靖国神社と戦後責任問題	537
国境を越える歴史認識を築く	539
斎藤一晴：社会責任を負う大学生	545
古厩忠夫：行動している学者	555

歴史は忘れるべからず

世界反ファシスト戦争勝利70周年を記念して

日本の 戦争

責任についての認識

歩平 著



五州伝播出版社



图书在版编目 (CIP) 数据

日本的战争责任认识: 日文 / 步平著; 译谷译. — 北京: 五洲传播出版社, 2015.8

ISBN 978-7-5085-3210-3

I. ①日… II. ①步… ②译… III. ①侵略战争—研究—日本—现代—日文
IV. ①K313.46

中国版本图书馆CIP数据核字(2015)第178397号

“历史不容忘记——纪念世界反法西斯战争胜利70周年”系列

监 制 / 国务院新闻办公室

出 版 人 / 荆孝敏

统 筹 / 付 平

日本的战争责任认识

著 者 / 步 平

翻 译 / 译 谷

责任编辑 / 高 磊

装帧设计 / 北京原色印象文化艺术中心

出版发行 / 五洲传播出版社

地 址 / 北京市海淀区北三环中路31号生产力大楼B座7层

电 话 / 010-82005927 82007837

网 址 / www.cicc.org.cn

承 印 者 / 北京圣彩虹科技有限公司

版 次 / 2015年8月第1版第1次印刷

开 本 / 889×1194毫米 1/16

印 张 / 36.5

字 数 / 450千

定 价 / 278.00元

目次

前書き

一 中日間の共同的な歴史研究から	8
二 三つの異なる面から見た歴史問題	11
三 「語境」——民衆歴史認識の異なる形成背景	12
四 お互いに理解促進するのは学者としての責任	15

第一編 敗戦——日本人の精神の大崩壊

「玉音放送」は歴史認識の「伏線」を埋めていった	18
「聖戦」思想の崩壊	29
「騙された」を発見——初歩的な目覚め	37
「神風特攻隊」の空しさ	43
社会の表と裏	48

知識人の「転向」と日本共産党の最後抵抗	55
小川武満医者：精神崩壊からリフレッシュまで	59

第二編 東京裁判——外部が戦争責任への追及

「戦争責任」を追及——外部それとも内部に源を発する？	86
----------------------------	----

東京裁判の対象	89
---------	----

東京裁判の法廷と準備	92
------------	----

裁判管轄権の論争に関して	94
--------------	----

起訴状	97
-----	----

判決	100
----	-----

東京裁判の意義	101
---------	-----

東京裁判の欠陥	104
---------	-----

「東京裁判史観」——造り出された概念	III
--------------------	-----

「東京裁判」に直面——栗屋憲太郎との対話	III
----------------------	-----

第三編 「悔恨の共同体」——内部から戦争責任に対しての追及

「戦争を始めたの責任」それとも「戦争失敗したの責任」	138
----------------------------	-----

誤った道に引かれた戦争責任の追及	141
------------------	-----

「二億人総懺悔」——欺瞞性の戦争責任論	144
---------------------	-----

天皇の戦争責任……………148

民衆主体意識の目覚め……………156

「国家に忠誠」を拒否——大熊信行の思考……………162

「悔い共同体」——丸山真男の思考……………169

日本人の戦争認識の問題——藤原彰先生との対話……………174

家永三郎様：「無作為」を反省する学者……………188

戦争責任の問題を検討——仏教僧侶の大東仁との対話……………210

第四編 アジア向けの戦争加害についての認識……………235

ベトナム戦争と日本人の戦争加害意識……………236

南京大虐殺問題に関する検討……………250

家永三郎先生と教科書訴訟……………258

加害角度からの戦争責任思考……………263

「毒気島」上で発生した物語……………267

「岐阜2001年会」……………282

日本での「毒気ショー」……………298

第五編 盲目から覚悟まで——戦争経験者の思考……………315

日本戦歿学生記念会（わだつみ会）……………317

「中国帰還者連絡会」(「中帰連」)	321
季刊「中帰連」	334
「犬死」についての討論	342
苦しい記憶と反省	347
山辺悠喜子：八路軍に参加した日本人	355
三尾豊：「鬼」から人間への元日本憲兵	388
第六編「広島から南京まで」	411
原爆から水爆まで	412
「原爆」一号——吉川清	415
平和都市の建設	419
矛盾からスタートした平和運動	424
広島民衆の反戦反核立場の形成	431
原爆爆発の被害と日本の加害	437
広島平和運動の考え直し	443
教育の重要性	452
広島への訴えと戦争責任	453
平和運動は直面する新問題	456
8月の広島	465

第七編 歴史修正主義の活躍と「戦後責任」の思考

「侵略戦争」性質についての争論	486
歴史認識論戦の焦点の一つ——「従軍慰安婦」の問題	488
「自由主義史観」——危険の傾向	492
「自由主義史観」が生まれた国際原因	497
「自由主義史観」と「大東亜戦争史観」	500
「新しい歴史教科書」の歴史観	509
「新しい歴史教科書」の戦争責任認識	514
「歴史教科書の記載が全面的に逆戻り」	517
女性性犯罪に対する国際審判法廷	527
「戦争責任」と「戦後責任」	532
靖国神社と戦後責任問題	537
国境を越える歴史認識を築く	539
斎藤一晴：社会責任を負う大学生	545
古厩忠夫：行動している学者	555

前書き

一 中日間の共同的な歴史研究から

中日国交正常化以来の長い時期に、人々は常に「一衣帯水」で東アジア地区の中国と日本間の関係を形容し、また戦争状態終了後の良好的な中日関係を大きく期待する。然し前世記90年代中期以来、中日関係を話す時に、「一衣帯水」という言葉が次第に少くなり、常に、中国と日本両国が東アジア地区の「転居不能な隣」であると言う。その表述は間違いないが、ある程度にどうにもならない気持ち及び中日両国間の「切っても切れず、整理してもなお乱れる」という複雑な関係を示した。特に21世紀に入ってから、一部分の日本政治家が歴史教科書の侵略戦争性質の否認と侵略歴史事実隠蔽を容認し、また靖国神社を参拝して戦争被害国民衆の感情を傷害するため、両国間の関係は急激に冷くなり、一度「氷点」以下に落ちた。人々は国際関係と国際政治の角度から、中日関係の変化原因について分析した。分析結果が様々あるが、近代以来に発生した中日戦争及びその戦争に対する歴史的認識が両国関係に影響を与える重要原因の一つである見方は一致している。

中日歴史問題は本来責任感がないの日本政治家らによつて起されたのであるが、この問題が酷い程度までに発展し、

両国関係を深刻に影響した時に、これらの日本政治家は、「歴史学家が歴史問題を正しく記述すると信じる」と言つて、自分の責任を全部逃れた。すると、2006年12月から、中日両国指導者は、両国政府がそれぞれ本国10名学者を派遣して共同研究委員会を組織して歴史問題について共同的に研究する意見の一致を達成した。私は該当委员会の中国側首席委員と委任された。三年の努力を経て、共同研究報告書は2010年1月に国際社会に向けて公布された。

中日両国政府が共同研究開始の情報を発布した後、私は次々に国内外から多くの手紙と電話を受けた。その中に熱情が溢れて共同研究による中日関係の安定的発展の促進を期待する手紙もあるし、義憤が胸にいつぱいて溢れて中国側の委員は日本側の学者に対する厳しい評判を希望する手紙もあるし、新たな研究結果と資料を提供する手紙もある。それに、批評の聲がかなりに多い。日本が中国を侵略する事実も承認しない。だから根本的にそれらと共同的に検討と研究するの必要がないという人もいるし、歴史問題を学者の検討に移転することが歴史事実を隠蔽する奸計であるという人もいる。私の忘年交の友達は率直に、抗日戦争と日軍暴行問題を研究する貴方が日本人と一緒に検討して、貴方が「投降派」となったことを思わなかったと言ってくれた。私の統計により、受け取った手紙の中で、歴史問題の共同的研究を反対するのが三分の一占めて、主に中国大陆・香港・台湾及び米国、カナダ、日本の華僑からのである。

中国学者として、私は十分に手紙から反映された気持ちを理解できる。確かに一部分の日本右翼と保守派の政治家、学者及び活動家が侵略戦争責任を否認して本来よい発展方向へ進んでいる中日関係を破壊したことをよく知っている。これらの手紙は幅広い分野からであり、ある程度に、特に戦争の残酷さと侵略者の残酷さを認識する歴史記憶が民族性と共通性を持つていてことを説明した。またこれらの手紙から、日本の中国侵略戦争が中国人民に深刻な影響を与え、中国人が今までもはつきりとした歴史記憶を保留していることが分かる。